

# 果樹産地における中型獣対策(愛知県新城市H地区)

- アンケートとトレイルカメラ調査に基づき地区の鳥獣マップを作成し、被害状況に関する情報を共有
- 地域ぐるみでブドウ園の中型獣被害防止を検討し、効果的な侵入防止対策の現地実証を実施
- 現地適合性が高い侵入防止技術として「楽落くんライト」(電気柵)の要点をまとめ、果樹農家に周知

## 取組内容

- 地区の果樹農家36戸を対象とした被害状況アンケート及びトレイルカメラ調査に基づき、鳥獣マップを作成。ハクビシン、アライグマなどの中型獣による被害が多いこと、河川や水路近くの園地で被害が多いことが判明



- 中型獣に的を絞って対策を検討。3シーズンの試行錯誤の末、侵入防止技術として「楽落くんライト」を採用。侵入防止と組み合わせた小型はこわなによる捕獲にも挑戦

### ☆侵入防止技術:3シーズンの試行錯誤の経緯

- ・2018年度:埼玉県農業技術研究センターの助言を受け、「楽落くん」を実証。十分な効果は得られたものの導入コストが問題
- ・2019年度:各農家が保有する電気柵の効果安定のため、防草シートの実証。しかし、設置労力が大きく断念
- ・2020年度:「楽落くん」の低コスト版「楽落くんライト」を一部改良し実証。優れた現地適合性を確認



ブドウ園に設置された「楽落くんライト」

## 成果

- 侵入防止技術の実証ほ場においては、これまで深刻だった中型獣被害が皆無に。確かな手応えを感じ、意欲が向上
- JAのブドウ出荷組織を通じた情報共有が進み、地域全体で対策を開始。2021年までに地区のブドウ農家27戸中11戸が中型獣侵入防止技術を導入



# 果樹産地における中型獣対策(愛知県新城市H地区)

**きっかけ・背景**

- ブドウ、カキ農家の担い手が減少
- 援農活動に活路を求め、鳥獣被害が深刻

**あきらめムード**

**課題**

- 主な加害鳥獣、立地条件による傾向など、被害の実態の把握と情報共有
- 地域に合った効果的な対策技術の体系化

**Step1 現状把握(H29)**

- 農家へのアンケート及びポイントとなる箇所でのトレイルカメラ調査
- 鳥獣マップを作成し、情報共有

**Step2 技術の体系化(R元)**

- まずは中型獣の侵入防止技術に的を絞り、現地実証
- 「楽落くんライト」(電気柵)による侵入防止技術を体系化

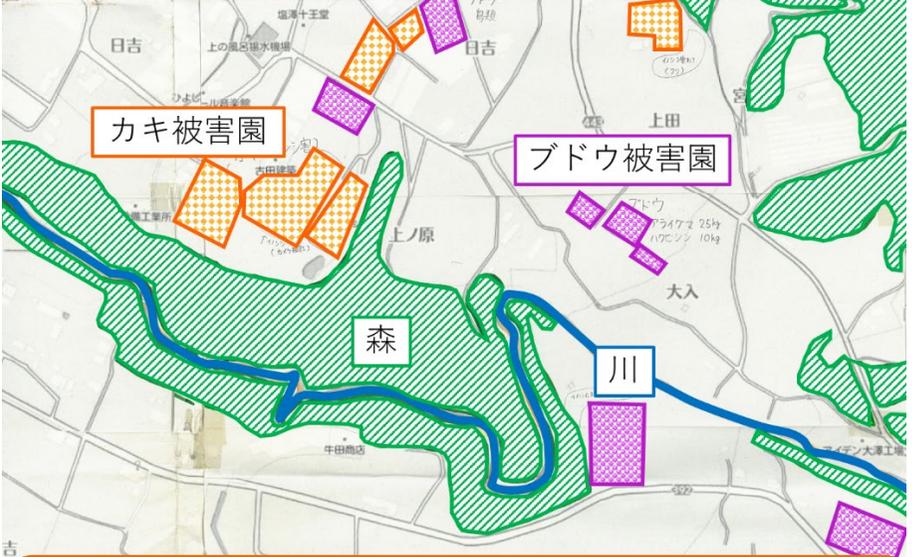
- 資材費(1m当たり) 320円
- 作業時間(1m・作業員1名当たり)
  - ・設置 2.3分
  - ・撤去 1.6分

**Step3 実証結果の周知(R2)**

- 「楽落くんライト」の効果に加え、資材費、設置及び撤去の労力を調査
- 果樹産地への中型獣類の侵入防止対策の最適解として情報共有

**今後の課題**

- カラス等の鳥害対策技術の確立と普及
- 果樹栽培の担い手確保・育成、園地継承



**取組の特色**

- アンケートとトレイルカメラ調査で気づきを促し、マップを作って被害の地理的なイメージを共有
- 中型獣に的を絞り、農家自らが実践可能な対策を検討
- 3シーズンに及ぶ粘り強い試行錯誤の末、中型獣類の侵入防止対策として、現地に適合した最適解に到達

**取組による成果・効果**

- 果樹園における中型獣の侵入防止対策として「楽落くんライト」を実証し、適切に設置・管理することで被害は皆無に
- 現地適合性の高い中型獣対策の「最適解」として周知し、産地としての方向性を明確化

**あきらめムードから一転、「なんだ、私たちやれるじゃん」に**